

「IT-MatexⅢ」導入事例

ジャパンビジネスサービス有限会社様

原料の在庫管理や配合作業など
正確なトレーサビリティ化が実現

「IT-MatexⅢ」で
創業以来の課題を
解消することが
できました



shanti



地下鉄東西線「葛西駅」北口より徒歩5分の場所にある直営店

ジャパンビジネスサービス有限会社
代表取締役
ジャグモハン S. チャンドラニ様



計量と配合ミスが解消され
作業工程のチェックもスムーズに

1981年に創業したジャパンビジネスサービス様は、日本にインド紅茶を普及させたパイオニアと言われています。

「当時は、紅茶のことを「セイロン紅茶」と呼び、インド紅茶はほとんど知られていませんでした」と語るのは、代表取締役 ジャグモハン S. チャンドラニ様。

創業当時の日本は、まだ化学農薬などを使用せず食物を栽培する「オーガニック」という言葉になじみがない時代。しかし、誰がどのように作っているか(生産履歴)の情報開示の必要性を感じ、当時からトレーサビリティに取り組んでこられました。そして、トレーサビリティのシステム化に踏み切ったのは2年前のこと。フリーパーティーの配合に課題を覚えたことがきっかけでした。

「ブレンドは毎日行いますが、茶葉はとても繊細で熟練のブレンダーでも難しいのです。『IT-MatexⅢ』を導入したことで、ブレンドシートを基に誰でもブレンドできるようになりました。同時に計量作業や配合作業のミスを事前に回避でき、正確なトレーサビリティも可能になりました」

インド紅茶やオーガニックを日本に紹介し、ビジネスを通して交流を図ってきたチャンドラニ様は、「江戸川インド人会」の会長として在日インド人の支援も行っていきます。また、一般社団法人リトルインド東京では事務局長を務められ、8月にクリケットの親善試合を江戸川区の陸上競技場に開催するなど、インドと日本を結ぶさまざまな活動に尽力されています。

③③ ブレンド作業の工程を見学させていただきました



「IT-MatexⅢ」導入で、正しい原料・正しい計量による配合が行われている



ブレンドシートのデータをスキャンして、スタート

ブレンド作業が
楽になりました

製造管理部
工場長
溝上 博様



すべての原料を回転式のドラムブレンダーで混合する



完成した製品には、すべてラベルを添付(ラベルプリンターは「GP-4100a」を導入)



工場内にはたくさんの紅茶が適切に品質管理されている



新商品の水出しティーバッグ4種。左からアールグレイ、ピーチ、マスカット、ダーズリンブレンド

DATA

ジャパンビジネスサービス有限会社
本社・営業部(ショールーム)
東京都江戸川区西葛西3-3-15
TEL:03-3688-4888
<http://www.shanti-jbs.com/>



シャンティ紅茶のさまざまな商品は、ショールーム兼直営店で購入することも(またはHPでも購入可能)

「エアコン普及率の高い日本では、体が乾きがちです。紅茶はタンニンやテアニンなど体によい成分が含まれている。とてもヘルシーな飲み物。ゼヒ、マイボトルにティーバッグと水を入れて紅茶で水分補給を」
(チャンドラ一様)

おすすめは手軽でおいしい水出し紅茶
シャンティ紅茶は、元インド政府紅茶局広報官を務めたシャンティスリ・ゴスワミ様がテイスター、ブレンダーを務めるブランド。インド各地の茶園から高品質で新鮮な紅茶を直輸入し、国内で製品化していますが、特にテイスターの出身地であるアッサムの品質には自信を持っています。
この秋のおすすめは、4種類の水出し紅茶。常温でも冷水でも手軽においしい紅茶を楽しむことができます。「エアコン普及率の高い日本では、

食品製造現場のさまざまなリスクを回避「安心・安全」をサポート！

原料トレーサビリティシステム

IT-Matex III

上位基幹システム

プリンター

IT-Matex 管理 PC

インターネット

無線 LAN 基地局

ハンディターミナル

バーコードプリンター

入庫・保管

手計量配合ミス防止システム

配合

無線 LAN 基地局

ハンディターミナル

バーコードプリンター

製品・出荷

バーコードプリンター
[GP-4100α]



幅広いラベル発行に対応

8.4インチの大型カラータッチパネルと視野角の広いTFT液晶採用により、操作性と柔軟性の高さが実現。この1台で用途に合わせた、さまざまなラベルが誰でも簡単に発行できます。

手計量配合ミス防止システム
[WEIGHT BLENDER DI-2000]



正確な計量・配合作業を実現

「原料間違い」「計量ミス」「配合漏れ」などのヒューマンエラーを防止。計量実績はすべて自動で内部に保存(USBやLANでパソコンへデータ渡しが可能)。無駄なコストを抑えて生産コストを安定させ、現場作業の標準化を実現。

お問い合わせ